

夏休み・お仕事体験プログラム

参加者
大募集!

8.17水・18木

横浜市内各所

※詳細はウェブサイトをご覧ください

対象 市内在住または在学の小学3～6年生

申込期限 令和4年 7月20日(水)まで

KODOMO
ADVENTURE
COLLEGE 2022

実施報告書

プログラム一覧

会場 (区)	プログラム	企業・団体等名称	会場 (区)	プログラム	企業・団体等名称
1 青葉	しょうぼうたいいん 消防隊員になってみよう!	横浜市青葉消防署	21 中	けんせつこうじ 建設工事ってどんなお仕事?? けんせつ 建設のお仕事にチャレンジ♪	一般社団法人 横浜建設業協会 横浜建設業青年会 共催
2 旭	あさひく みらいはっけんきょうしつ 旭区子ども未来発見教室	旭区地域振興課	22 中	こ 子どもアドベンチャーカレッジ2022 かね かん ～お金のおもさを感じよう!～	株式会社神奈川銀行
3 泉	しょうぼうしたいいけん わくわく消防士体験	横浜市泉消防署	23 中	じょうほう もり ぼうけん こころえ 「情報の森」冒険の心得を しゅざい しんぶん 取材し、新聞にしよう!	ニュースパーク (日本新聞博物館)
4 磯子	かがく 「科学」ってなんだ?	はまぎん こども宇宙科学館	24 中	しごと たいいけん スポーツチームのお仕事を体験 してみよう!	横浜市市民局スポーツ振興課 横浜DeNAベイスターズ、横浜FC、 横浜F・マリノス、横浜ビー・コルセアーズ、 横浜エクセレンス、横浜キャノニークス
5 磯子	ひ お たいいけんきょうしつ 火起こし体験教室	横浜市三殿台考古館	25 中	たいいけん にちとし 体験! 1日都市デザイナー	横浜市都市整備局 都市デザイン室
6 神奈川	しゅつばんしゃ しごと もとどうだいやくゆうぶ 【出版社のお仕事!】元東大野球部 かんとく はまだ 監督の浜田さんにインタビュー	ビジネスエグゼクティブ キャリアカンファレンス 株式会社	26 中	どうしむら しょうむら たいいけん 道志村と昭和村を体験だ!	横浜市政策局 広域行政課
7 神奈川	どうぶつあいご 動物愛護センターの しごと まな 仕事を学ぼう!	横浜市健康福祉局 動物愛護センター	27 中	なつやす こ ぼうえききょうしつ 夏休み子ども貿易教室	公益社団法人 横浜貿易協会
8 神奈川	なつやす こ かんきょうかがくきょうしつ 夏休み子ども環境科学教室	横浜市環境創造局 環境科学研究所	28 中	メイクスポーツ! スポーツをつくる しごと お仕事ってなんだろう?	公益財団法人 横浜市スポーツ協会
9 金沢	あつ おんぜん も ごみが集められて安全に燃やされる しごと たいいけん までのお仕事を体験しよう	横浜市資源循環局 金沢工場	29 中	ぼうさいはかせ めざせ! まちの防災博士!	横浜市都市整備局 防災まちづくり推進課
10 金沢	いりょうしゃたいいけん シミュレーターで医療者体験を してみよう	横浜市立大学 医学部看護学科	30 中	まな しごと もけいで学ぼう! けんちくの仕事	公益財団法人 横浜市建築保全公社
11 金沢	ふよう そざい こうさく 不用になった素材で工作しよう! たいいけん アップサイクル体験!	武松商事株式会社	31 中	<よこしん> キッズ・マネースクール	横浜信用金庫
12 港北	せいきょう たくはい 生協ってなに? パルシステムの『宅配』 しやかいかつどう しごと と『社会活動』のお仕事	生活協同組合パルシステム 神奈川 新横浜本部	32 西	かぞく たいいけんでい 家族でワクワク体験DAY	SMBC日興証券 株式会社
13 港北	よ なか べんり 世の中を便利にするコンピュータ のお仕事 学ぼう!	株式会社 タスクフォース	33 西	しごとたいいけん コールセンターお仕事体験! じどうしゃ じこ もしも自動車事故がおきたら?	あいおいニッセイ同和 損害保険株式会社
14 栄	み さわ の くるま 見て、触って、乗って、車の たいいけん エネルギーを体感しよう!	株式会社 タツノ (横浜工場)	34 西	た せかい かんが 「食べる」から世界を考えよう!	横浜市国際局 国際協力課
15 都筑	がくげいいん いっしょ はくぶつかん 学会員と一緒に博物館の うらがわ たんけん 裏側を探索しよう!	横浜市歴史博物館	35 西	きそ じつたいいけん プログラミングの基礎を実体験 してみよう!	株式会社ICON
16 戸塚	こ やくざいしたいいけん 子ども薬剤師体験セミナー	横浜薬科大学	36 保土 ヶ谷	よこはま 横浜のみどりを守る! い 生きものレンジャーになろう	横浜市環境創造局 環境活動支援センター
17 中	はなし なか ねこ か お話の中の猫を描こう! かんそうがたいいけん ～感想画体験～	大佛次郎記念館	37 緑	かんご しごと 看護とりハビリのお仕事を たいいけん 体験してみよう!	昭和大学保健医療学部
18 中	がくげいいん しごとたいいけん 学芸員のお仕事体験を してみよう!	横浜人形の家	38 南	すいどうかん しょうり 水道管を修理してみよう!!	横浜市水道局 人材開発課
19 中	ぎじどうたんけん ぎいん たいいけん 議事堂探検! 議員を体験!	横浜市議会局 政策調査課	39 南	スーパーでレジや はんばいいんたいいけん 販売員体験をしよう。	株式会社 イトーヨーカ堂 横浜別所店
20 中	と ぜいきん し クイズを解いて税金を知ろう! ぜいきんなぞと ～税金謎解きゲーム～	横浜市租税教育推進協議会	★プログラムの最後の振り返り会でみんなの感想を聴かせてね!★		





- ・団体名：横浜市青葉消防署
- ・プログラムの目的： 少年少女期における防火防災思想の普及啓発及び
消防業務に対する理解を深めるため
- ・実施日時：令和4年8月17日（水） 9:30～12:00
- ・実施場所：青葉区市ケ尾町33-1 青葉消防署
- ・参加者数：児童 13人 / 保護者 13人
- ・プログラムの内容：

① 消防車両・資機材の展示	② 放水体験（防火衣装着）
③ 起震車による地震体験	④ はしご車搭乗体験
⑤ 心肺蘇生法・AED取扱い体験	⑥ 庁舎見学

当日の様子



消防車両、資機材の展示



放水体験（防火衣着装）



はしご車搭乗体験



心肺蘇生法、AED取扱い体験

横浜市消防局 消防少年団
子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022

振り返り会

参加児童の主な感想、意見

- ・ 消防隊員の仕事を学べて良かった。
- ・ 初めてはしご車に乗って、少し緊張したけれど、いい体験だった。
- ・ 地震体験、はしご車搭乗体験、AED体験が特に楽しかった。
- ・ 救急体験がとても勉強になった。
- ・ 防火衣を着ることができて良かった。
- ・ 放水体験が楽しかった。
- ・ 将来、消防隊員になりたい！

プログラムを終えての感想

企業・団体等の感想など

- ・ 感染防止・熱中症対策に十分配慮して、事故等もなく各種体験を実施できた。
- ・ 児童は楽しみながらも、真剣に体験していた。
- ・ 児童だけでなく、保護者も興味をもって見守っていた。

学生コーディネーターの感想など

- ・ 1つ1つの体験時間を長くした方が良かったと思った。
- ・ 可能ならば、消防職員の災害出場訓練を見たかった。

旭区こども未来発見教室



主 催：旭区地域振興課

目 的：こどもの「理科離れ」が指摘
されている中、本講座を通じて、
自然科学や学ぶことへの興味・関心を
深めることを目的としています。

日 時：令和4年8月18日（木）

会 場：旭区市民活動支援センター みなくる

参加数：30名（参加児童18名、同伴保護者14名）

内 容：①光と鏡が作る不思議な世界 万華鏡を作ろう！（小3～4年生向け）

万華鏡を作成し、光と鏡が作る不思議な世界のしくみを学びました。

②風に向かって走れ！風力車（小5～6年生向け）

風に向かって走る不思議な風力車を作成し、そのしくみを学びました。



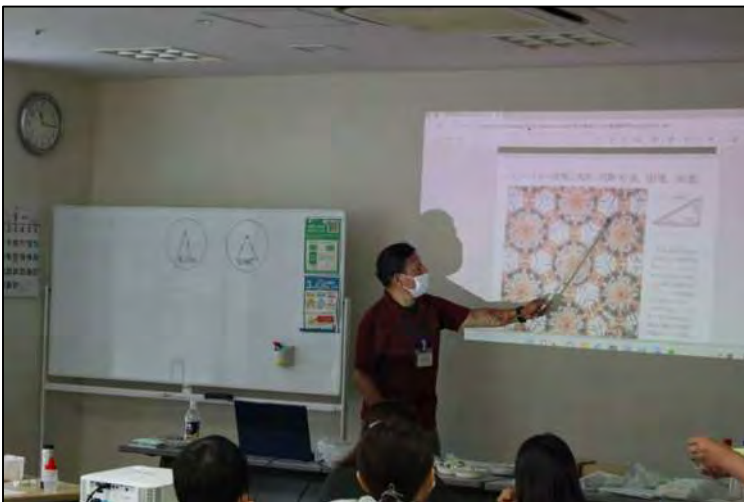
当日の様子



⇐配布された教材で課題工作を作成している様子。



自作した工作で実験している様子。↑



⇐工作だけでなく、簡単な座学でそのしくみを学びました。

振り返り会



受講後、当日の感想などを参加児童がひとりずつ話しました。

【参加者のコメント】

- ・ 受講前より理科が好きになった。
- ・ しくみの説明があったので分かりやすかった。
- ・ もっと色々なことを調べてみたいと思った。
- ・ 難しかったけど楽しかった。
- ・ 説明を聞いて、自分で作ってみるというのが楽しかった。
- ・ 科学に興味がわいた。



プログラムを終えての感想

■旭区地域振興課

の夢が手
て、おの
め、した
初、実施
も、真実
で、とこ
し、ちる
と、見も
旭、姿を
旭、姿を
は、こも
座、組た
講、取ま
の、して
回、でっ
今、みな
試、に義

■学生コーディネーター

な、は、た
し、に、し
戦、中、実
苦、充、た
み、し、た
し、ま、あ
楽、き、あ
に、で、恵
緒、が、知
一、と、や
と、こ、こ
ち、む、知
た、組、る
も、り、知
子、ど、取
が、初、時



【子どもアドベンチャーカレッジ2022】「科学」ってなんだ？

団体名 : はまぎん こども宇宙科学館

目的 : 「科学」とはなんなのか、科学館は科学の楽しさを伝えている場所であることを知ってもらうこと

実施日時 : 2022年8月17日(水) 10:30-12:00(午前),
13:30-15:00(午後)

実施場所 : はまぎん こども宇宙科学館 2F 実験室

参加児童数: 午前9人、午後9人

実施内容 : ドライイーストによるアルコール発酵の実験



ドライイーストと砂糖を混ぜて5分待つと泡(二酸化炭素)が出はじめます。30分以上待つと、500mLにペットボトルの半分くらいまで膨らみます。トウモロコシやトマトといった野菜の缶詰めでも膨らみました。



野菜を発酵させる時、児童たちはいつ変化が起きるのが気になって、じっとりと覗き込んでいました。教室終わりの写真撮影では、泡がたっぷりになったペットボトルを持って、掲げてくれました。

振り返り会での児童たちのコメント

- ・とても楽しくて、来て良かったと思いました。
- ・アルコール発酵がガソリンの代わりになろうとしていることが知れた。
- ・砂糖が発酵するのは知っていたが、それ以外のものでも発酵できるのは知らなかった。家で他の物を発酵させたい。
- ・酵母の力を借りて植物からアルコールを作ること家族に話して、科学の面白さを伝えたい。
- ・科学は何か+何かをすると、とても面白いことが起きるんだな
～！と思いました。

プログラムを終えて

・スタッフの感想

来て良かったという言葉をもって自信に繋がった。

家で他の物を発酵させたい、家族に話して科学の楽しさを伝えたい等、教室の後も続けたいと思ってもらうことができた。今後も意欲が持続する教室を実施し続けたい。

・学生コーディネーターの感想など

子供たちが科学の面白さを感じられたことや研究者という職業を知ってもらえたことは、今後、将来について考える時に役立つと考えています。その為、将来を考えるきっかけや手助けをしたいという自分の目標を達成できたのではないかと考えております。

自分が思っていたよりも子供たちはずっと大人で、考えがしっかりしていることに気がつきました。実験を通して感じたことなどを聞いてみると、しっかりと受け答えをすることが出来たり、私も思いつかない発想などをしたりしていて、私自身が勝手に持っていた小学生のイメージとは全く異なりました。小学生に対して、子供として接するのではなく、一人の人として関わって行くことが重要だと感じました。



- ・ 横浜市三殿台考古館『**火起こし体験教室**』
- ・ 昔の道具を使うことで先人の苦労を体感し、現代の便利な社会を改めて知るため
- ・ 令和4年8月17日（水）
- ・ 横浜市三殿台考古館
- ・ 参加者：9人／同伴者：17人
- ・ 昔の火起こしの道具を使い、実際に火を起こす体験をする

当日の様子



参加者へのレクチャーの様子



サポートをする学生コー
ディネーター



炎が上がった様子

振り返り会



- ・ 熱かった（暑かった）
- ・ 難しかったが、火がついてよかった
- ・ 火を起こすまでに（体が）暑くなった
- ・ 手袋をしても火の熱さを感じた
- ・ 熱かったけど、楽しかった

学生コーディネーターによる終了証授与



プログラムを終えての感想

- ・思うようにできず苦労していた子もいて、プログラムの目的が果たされた
- ・最終的に火が起きたときは大変うれしそうだった
- ・成功体験を味わうことがきっかけで様々なことに興味を持ってもらえるようにしたい
- ・なかなかうまくできなく大変だった
- ・十分に説明を伝えることができず教えることが難しかった

子どもアドベンチャーカレッジ2022

出版社のお仕事東大野球部前浜田監督にインタビュー



目的 読書離れが騒がれる昨今で、少しでも読書の楽しさを知ってもらいたい

プログラム内容

- ①東大野球部浜田前監督と参加者の皆さんに事務局が準備致します同じ本を読んでもいただきます。
- ②本を読んだ後で、どこが好きだったか理由をお話します。
- ③浜田前監督からコメントをいただきます。
- ④浜田前監督から好きだった箇所とその理由について解説致します。
- ⑤浜田前監督より、勉強と部活動の両立のコツについてお話し致します。

- 参加対象者 6年生
- 場所 かながわ県民センター 306会議室
- 日程 8/17(水)11:00~
- 参加児童数 5名
- 保護者同半数 4名
- 題材にした書籍
「社会に出て君はどう生きるか」 工藤秀雄

当日の様子



全員で読書中



集合写真

振り返り会



■参加者からの感想

- ・ 色々な人の意見が聞けてよかった
- ・ 東大の人の思っていることが知れて勉強になりました
- ・ 人の考えや本からいろんなことを学んで勉強になりました
- ・ いい経験になった
- ・ 知恵とか知識を学んだので生活にいかしたい



プログラムを終えての感想

■感想、反省など

- ・小学生の読書イベントは普段から本好きが集まるかと思いきや、運動大好き、国語は苦手という子もいて読書のきっかけになれたかと思います。テーマに文武両道をかかっていた効果かと推察します。印象に残った一文を上げてもらい、なぜ印象に残ったかを問うと、「体験」「目からうろこ」「不安」の3つの要素に分類されました。おもしろい。
- ・大学生のボランティアだけでなく、高校生、中学生にも、参加OKにしてもいいかもしれない。
- ・最初に予定していた出版社のお仕事、というよりは講義形式色が強かった。もう少し参加型にできたらよかった。

■学生コーディネーターの感想

- ・最初、本を読んだときの印象は小学6年生には難しいんじゃないか、飽きてしまわないかと心配でしたが、参加してくれたみんなが真面目に取り組んでくれて嬉しかったです。本の内容は大学3年の私にも響く部分があって、小学6年生の子どもたちと一緒に学ぶことができ、とても良い時間を過ごすことができました。
- ・最初の説明で難しくないかと心配してたのですが来てくれた子達のすごく前向きな取り組みをみてとても驚きました。浜田さんの貴重なお話を沢山聞くことができ、本当に色んな刺激を貰った一日でした。まだ1年生ですがこれからの大学生活やアルバイトに活かしていこうと思います。

動物愛護センターの仕事を学ぼう！



- ・ **団体名**：横浜市健康福祉局動物愛護センター
- ・ **プログラム実施の目的**：動物愛護の普及啓発

・ **実施日時**：8月17日・8月18日 10時～12時

・ **実施会場**：横浜市動物愛護センター

・ **参加児童数**：30人（2日間合計）

・ **保護者・未就学児など同伴者数**：31人（2日間合計）

・ **プログラムの内容**：センターのお仕事紹介、犬猫クイズ、センター内見学



当日の様子

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022

センターの
お仕事紹介



センター内
見学



犬猫クイズ



マイクロチップの
読み取り体験



振り返り会



参加児童の主な感想、意見

- ・ センターの犬やねこがかわいかった。
- ・ 動物を飼うのはとても大変だと思った。
- ・ 1年間に犬やねこがこんなに多く入ってくることにおどろいた。
- ・ センターに入ってくる動物たちをへらす活動を
たくさんの人に広げられるように、
自分は今日学んだことを友だちなどに伝えられたらいいなと思った。



プログラムを終えての感想

・団体の感想

センターのお仕事やセンターに収容される動物についてのお話を真剣に聞いてくれた子どもたちの姿が印象的だった。動物を飼うことの大変さに気づいたり、センターに収容される動物を減らしたいと考えてくれた子どももいて、動物愛護について考えてもらう良い機会になったと感じた。今後も子ども向けのイベントを企画していきたい。

・学生コーディネーターの感想

このイベントを通じて、幅広い世代間での交流の重要性を実感した。また、動物愛護センターが地域や社会に根差した存在であることがよくわかった。振り返り会では司会進行をしながら、子どもたちから意見や感想をたくさん出してもらえそうな雰囲気づくりにも意識して臨んだ。今回の経験を今後の活動に生かしたい。

夏休み子ども環境科学教室



横浜市 環境創造局 環境科学研究所

日時 8月18日（木） 天気 ☔→☀

午前の部 9：30～12：00

午後の部 13：30～16：00

会場 環境科学研究所（神奈川区）

参加者 児童 20人 保護者 18人

プログラム

施設見学（全体）

夏の暑さを知ろう or 水環境問題

目的

環境科学研究所の仕事を知ってもら
うほか、1人ひとりが楽しく環境につ
いて学び、自分たちでできることを探
して行動するきっかけとなる体験学習

横浜の夏を知ろう

～カメラを使った暑さしらべとセミの抜け殻しらべ～

🔍 セミの抜け殻しらべ 🔍

横浜市内のセミの抜け殻を参加者と職員が一緒に調べました。横浜にいるセミの種類や、鳴き声などを知ってもらい、身近な生き物について興味を深めてもらいました。

☀️ カメラを使った暑さしらべ ☀️

サーモカメラやレーザー温度計で温度を測定し、ミストでなぜ涼しくなるのか、洋服の色と暑さの関係など、暑さ対策に関する技術を体験しました。

セミの抜け殻しらべ



カメラを使った暑さしらべ



水環境問題

～マイクロプラスチックを調べてみよう～

マイプラあるかな？



分離・分析中



世界中で話題となっているマイクロプラスチック問題について、簡単な講義を行い、実際に市内の海岸等で採取した試料からマイクロプラスチックを分離・分析します。講義と作業を通じて、マイクロプラスチック問題について、何が問題なのか・私たちにできることは何なのかを考えてもらいました。

環境博士認定式 ～振り返り会～

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022

みんなの感想

環境博士の認定式



サーモカメラでやった実験を生かして身の回りでどんなことをしたらすずしいか、打ち水以外にもないか調べてみたいです。

セミ
暑さ

マイクロプラスチックの説明や、実際の体験などがあったので、よりマイクロプラスチックについて、深く学ことができたので、すごく楽しかったです。また機会があったらいつてみたいくらいおもしろかったし勉強になりました。

マイ
ブラ

セミ
暑さ

知らなかったセミのせい別の分けかたが初めてわかってとてもうれしかった。

プラスチックのしゅるいをみわけるきかいを使えてたのしかったです。

マイ
ブラ

セミ
暑さ

電子けんびきょうやサーモカメラなど、おもしろい道具がいっぱいあってたのしかった。セミのぬけがらはかえて調べてみたい。けんびクンカッコイ

マイ
ブラ

海岸の砂の中にたくさんのプラスチックが入っていておどろきました。今度いろいろな砂浜に行つてどのくらいマイクロプラスチックが入っているのかを調べてみたくなりました。

セミ
暑さ

サーモカメラをはじめてつかつておもしろかった。セミのぬけがらで、6しゅ類のセミをはじめてみておもしろかったです。

スピーチ



認定式の司会をしました



環境科学研究所

よかった点

環境科学研究所では、かつて、今回のような施設見学会を独自に行っていたが、子どもアドベンチャーの仕組みに参加することで、広報、参加者の募集～選考、保険手続きを効率的に行うことができ、その分の時間をプログラム準備に費やすことができた。また、ターゲットを小3～6年生としたことで、より分かりやすいプログラムを作成することができた。

反省点

かつて独自実施していた施設公開に比べると、来場者が少ない。（2017年参加者は親子約160人）また、大学生コーディネーターには、事前に各プログラムの詳細な打ち合わせをすれば、もう少し役割を担ってもらうことができたかも知れない。保護者参加について、必須とした方が良かったと感じた。



大学生コーディネーター

大学生コーディネーターのお2人ありがとうございました。

■海岸の砂の中にプラスチック破片や人工芝などマイクロプラスチックが想像以上に埋まっており、漠然としていた環境問題のイメージを明確にすることができました。今後、ポイ捨て防止対策への参加や、身近な人へ知識を伝えることで自分なりに輪を広げていきたいと感じました。

■何種類ものセミの抜け殻観察では、子供達も夢中で抜け殻の識別をしていて、私にも説明をしながら教えてくれるなど、一緒に作業をできて良い思い出になりました。

■参加した子ども達は、皆探究心があり、新たなことを学びたいという意欲がとても感じられました。職員の皆様とも積極的に交流することができ、直接お仕事にふれることができて、これからの将来への視野が広がりました。

ごみが集められて安全に燃やされるまでのお仕事を体験しよう



- ・団体名：横浜市資源循環局 金沢工場
- ・プログラム実施の目的：自分達が出したごみについて、どのような作業で処理されて行くかを知って欲しいため。
- ・実施日時：8月18日
- ・実施会場：金沢工場・金沢資源選別センター
- ・参加児童数：15名 同伴者数名：14名
- ・プログラム内容：ごみ収集体験・収集車乗車体験・サイエンス教室
・ごみクレーン運転体験・電気機械設備修理体験

当日の様子



ごみ収集体験



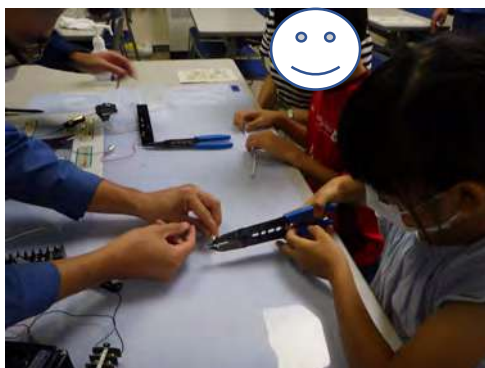
収集車乗車体験



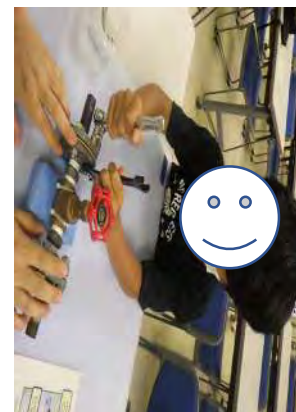
サイエンス教室



ごみクレーン操作体験



電気設備修理体験



機械設備修理体験

振り返り会



【参加者の感想】

- ふだんできないような体験ができてよかった。
- ちょっとしたことでごみを減らすことができるとわかってよかった。

【学生コーディネーターの感想】

- 楽しくイベントを終えることができてよかったです。



プログラムを終えての感想

- ・日頃の通常業務に加えて、開催準備のほうも少しずつ頑張って進めてきました。

参加児童のみなさんの笑顔が見られたことで、その頑張りが報われた気がします。

- ・みなさんの前で感想をうまく言えずに時間がかかってしまった児童もいらっしゃいましたが、付き添いのお母さんが助けてあげたりして、児童にとってのよい経験機会となっただけでなく、家族のきずなが深まるようなイベントにもなったのではないのでしょうか。

プログラムの概要

団体名 横浜市立大学医学部看護学科

目的 実際に基礎教育・卒後教育で使用されている
シミュレータを使って医療者体験をしてもらい、
医療従事者の仕事をイメージして興味・関心を深めてもらう。

日時 2022年8月17日（水）13-15時

会場 横浜市立大学附属病院シミュレーションセンター

参加者 児童：24名、きょうだい：4名、保護者：25名

内容 オリエンテーション・講話
体験

- ▶ 感染予防
- ▶ 身体診察（呼吸音聴取、エコー）
- ▶ 一時救命処置

ふりかえり会

シミュレータで医療者体験をしてみよう



感染予防



身体診察：
エコー



一次救命処置



身体診察：
呼吸音聴取



講話

体験の様子

8グループに分かれて
各体験ブースをラウンドしました。





ふりかえり会

- 「一番楽しかった体験とその理由」をテーマに、まずは、個人でふりかえりをし、その後、各グループ（3-4人）で内容を共有し、最後に、各グループの代表者が発表しました。
- 実際に出た意見の例：
 - ▶ テレビで見たことがある医療処置の方法を実際に知ることができてよかった。
 - ▶ 自分でいろいろと動けるものが楽しかった。



プログラムを終えての感想

- 団体の感想

- 最後のふりかえり会で各ブースの実体験から医療や看護に興味を持ってくれたことがわかり、有意義な時間を提供できたのではないかと感じました。
- 今回の体験やシミュレーションセンターの様子を見て、本学看護学科に興味を持ち将来の目標を持ったお子さんがいらっしやり、小学生のうちから大学という場に触れる機会を提供する重要性を感じました。

- コーディネータの感想

- 今後社会の一員として仕事をする自分をイメージすることができ、大変貴重な経験になりました。聞き手の興味を引くためには表現の仕方や言葉選びが重要だということを再認識できたので、今後の様々な活動に活かしていきたいです。

不用になった素材で工作しよう！アップサイクル体験！



武松商事株式会社

目的：地球環境保護が全世界共通の重要課題となっている今、
“工作教室”を通じて子どもたちに環境保護について楽しく学んでいただくため

日時：2022年8月17日(水) 10：00～12：00

会場：エコクルファクトリー

参加児童数：8名（2名病欠）、同伴者数：4名

内容：「ごみ」についての講話、アップサイクルワークショップ

当日の様子



「ごみ」についての講話



アップサイクルワークショップ



不用になったロールカーテンから三角コインケースづくり



振り返り会

- ・はじめて「アップサイクル」という言葉を知ったけど、とても楽しかった。
- ・あと20年で埋立地がいっぱいになってしまうということを初めて知ってびっくりした。
- ・いらなくなったものを、リユースしてみたいと思った。



プログラムを終えての感想

アップサイクルのワークショップに興味を持ってくれたお子さんが多かったので、今後は講話だけではなく体験型の学習も取り入れていきたい

学生コーディネーターさんの感想

- ・ 想定外のことが起こったときに、臨機応変に対応できるようにしたいと思いました。
- ・ 環境問題やアップサイクルについて学ぶことができ、また“子どもたちのお手伝い”という経験ができた。

「生協ってなに？パルシステムの 『宅配』と『社会活動』のお仕事」



◆ 生活協同組合 パルシステム神奈川 ◆

当組合の商品供給・共済などの『事業』や「助け合いの協同組合」として社会・地域に貢献するために取り組んでいる『社会活動』業務や環境(リサイクル)に対する取り組みを、小学生に学習体験してもらい、「事業」と共に「社会活動」が仕事につながっている「生活協同組合」を理解してもらう機会となりました。

- * 実施日時 8月17日(水) 10:00～12:00 * 会場 新横浜本部(港北区)
- * 参加児童数 9名 / 保護者(同伴者数) 9名
- * プログラム <パルシステム神奈川のお仕事><なぜ、リサイクルは必要か?>
<社会活動のお仕事(平和課題)>を学習後、配送研修体験・リサイクル
仕分け体験・ボランティア企画事務体験を行い振り返りの会を実施。



事業内容や社会活動について解説しています

生協の
「事業」に
ついて



子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022

「平和」
について
考え・つなぐ
仕事

学習後にリサイクル品の仕分け・配送体験
にチャレンジしてもらいました

「環境」に
配慮する仕事



商品供給の
大切さ



商品配達時は挨拶やマナー、安全が重要
であると伝えました

参加者にはパルシステム神奈川の事業内容が商品を届けるという事だけではなく「くらしに必要」とされる「共済」事業などがあることや、環境に配慮した「リサイクル」の取り組みを知ってもらったり、安心できる生活・住みやすい地域づくりのために行っている「社会活動」(今回は「平和課題」を紹介)の実際の業務を学び・お手伝いをしてもらいました。

振り返り会

▽ 参加児童の主な感想、意見

商品供給の学習・体験

- ・(映像をみて)配送員は商品が重くても笑顔で配達してくれる、雨の日は大変そうだ。
- ・配送体験が面白かった。

リサイクルの学習・体験

- ・いつも普通にごみを出しているけど、分別するとなったらこんなに難しい。
- ・リサイクルできる物ってかぎられる、これからはしっかり分別していきたい。
- ・パルシステムでは、リサイクル作業で細かい分別をしていて驚いた。
ABパックの内側が銀色なことを知らなかった。



＜子どもアドベンチャーカレッジを終えての感想＞

＊パルシステム神奈川・担当事務局＊

子どもアドベンチャーカレッジに初めて参加させていただきました。当組合の「仕事」を小学生に理解してもらうにあたり、どのような進行をしたら伝わりやすくなるかといった計画初段からのスタートでしたが結果として学習と体験を1時間20分実施中、参加児童の集中力は途切れることなく真剣に、時折笑顔を見せながら参加してくれました。参加児童にとってこのような経験が、仕事への興味や関心につながる「社会参加のきっかけづくり」となれば幸いです。当組合にとっても意義深い企画となりました。



＊学生コーディネーター＊

Kさん(フェリス女学院大学)

当日一日を振り返り、まず特に大きなトラブルがなく終わったことに一安心しました。

そして、子供たちが真面目に話を聞いたり、一生懸命体験している姿を見て、興味があって自分から学びに来ている事に感心しましたし、その学びをこれから生かして欲しいと感じました。

私自身、振り返り会の進行を上手くできるようにする事を目標としており、全体としてはちゃんと終わることができましたが、時間配分の面では、思っていたよりも早く終わって戸惑ってしまい、子供たちが不安に思ってしまう場面がありました。早く終わることを想定していなかったのも、もっと時間配分にも気を配るべきだと思いました。子供たちの貴重な夏休みの一日に関わることが出来て楽しかったです。

Nさん(フェリス女学院大学)

パルシステムさんとお仕事していく上で、ビジネスマナーや、企画の進め方など色々なことが学べました。また、イベントや当日では、SDGs平和のことなど、参加した小学生が学校で学んだことをより深く勉強出来ているように見受けられました。私自身、進行や人の前で話すことがとても苦手で不安を感じていましたが、意外とやってみると楽しく進行することができました。初めは自分のビジネスマナーなどのレベルアップのために応募しましたが、子供たちのためになれている実感が湧いて嬉しかったです。1つ反省点があるとすれば、体験の際に、会場内を往復しましたが、親御さんや子供たちがいて、手こずってしまったので、打ち合わせの際に自分でイメージをするべきだったなと思いました。

＊保護者の声＊

- パルシステムが商品配達以外にも色々な事業をしていることがわかり、小学生に楽しみやすい内容で実際の作業もあって良かった。
- お仕事体験をするだけでなく、平和課題について仕事の流れ・取り組み方についてや、環境問題も含め多岐にわたり知る事ができ、良い経験ができた。
- ＊ 他にも「実会場で参加できてよかった」「体験はもっと時間を増やして」といったお声をいただきました。

世の中を便利にするコンピュータのお仕事を学ぼう！



- ・ 株式会社タスクフォース（No.13）
- ・ 世の中を便利にするコンピュータのお仕事を学ぼう！
- ・ 2022年8月17日（水）
- ・ タスクフォース本社
- ・ 参加児童数：10名/同伴者数：9名
- ・ コンピュータがどう変化してきたのか知ってもらう

当日の様子



◆プログラムの流れ

- ・会社や仕事の理解
- ・コンピュータの昔と今を比較（PC・ゲーム機など）
- ・いろいろなところで使われている事例紹介
- ・こんなコンピュータがあったらいいな（個別発表）
- ・ものづくりの流れを知ろう
- ・振り返り会、記念撮影



振り返り会

◆参加児童の主な感想、意見

「昔のコンピュータを知れて面白かった」

「今はすごい便利だと思った」

「いろいろなところでコンピュータが使われていることに気づいた」

「プログラミングとかやってみたいと思った」

「世の中にはいろいろな仕事があることを知れてよかった」

プログラムを終えての感想

◆企業の感想

初めての開催で手探りなことも多かったですが、学生たちの協力もあって無事終わることができました。子どもたちに喜んでもらえたのかなと思います。

◆学生コーディネーターの感想

「自分たちもとても勉強になった」

「振り返りで子どもたちが参加してよかったと言ってくれて嬉しかった」

①プログラム実施の目的

- 子どもたちに車のエネルギーについて
楽しく学んでもらう

②実施概要

- 日時：2022年8月17日、18日
9：00～12：00
- 場所：横浜工場ショールーム
- 参加児童数：38名
- 保護者・未就学児など同伴者数：47名
- プログラムの内容：水素自動車の仕組み・乗車体験
ショールーム見学
振り返り会



当日の様子



レトロコーナーの
計量機は実際に操作
することができます



ベーパー(気化したガソ
リン)回収装置の付いた
計量機に
興味津々の皆さま



EV充電器での
充電体験も楽しん
でいただきました



水素自動車の
仕組みを学んでい
ただきました

振り返り会 ～参加児童の感想～

■ ショールームについて

- 普段目に見えないだけで、
沢山のベーパーが出ているということが分かった。
- 地下タンクがあんなに大きいものだとは知らなかった。
- ノズルが軽くて驚いた。

■ F C V乗車体験について

- 音がとっても静かで、心地よかった。
- 燃料電池を実際に見ることができ勉強になった。



■ 子どもアドベンチャーカレッジ全体について

- 原油のことを勉強できてよかった。
- 丁寧に説明してくれてわかりやすかった。

プログラムを終えての感想

■タツノの感想

- ・ショールームは元々営業ツールとして活用していたのだが、子どもも大人も楽しめる場であることに気づくことができた。
- ・ショールームは商談のみでなく、ブランディングの場でもあることを再認識した。

■学生コーディネーターの感想

- ・小学生やその親御さんが、楽しそうに笑顔でイベントに参加している姿を間近で見ることができて、温かい気持ちになった。
- ・企業の方々の会社や製品に対する熱い思いを肌で感じることができ、私も自分が誇りに思える仕事に出会いたいと思った。

学芸員と一緒に博物館の裏側を探検しよう！



・施設名：横浜市歴史博物館

・プログラム実施の目的：

博物館のウラガワの探検を通じて、博物館の役割や学芸員の仕事、横浜の文化財について知ってもらうため。

・実施日時：8月17日（水）14時～15時半

・実施会場：横浜市歴史博物館

・参加児童数 / 10名

・プログラムの内容：バックヤードの探検・実物資料の見学、説明

当日の様子



搬入口のシャッターとリフター



中央監視室で監視カメラや
温湿度調整の装置を見学



千歯こき（実物）
を赤外線カメラで
見ると…



振り返り会



○参加児童の主な感想、意見

- ・いろいろ工夫がしてあってすごかった
- ・参加していろんな発見があってすごかった
(特に殺虫の工夫がすごかった)
- ・手で稲を取ったことがあるから、千歯こきが
あれば便利だと思った
- ・管理をしている人がすごいと思った
- ・デカイエレベーターが揺れずに動くのがすご
かった

プログラムを終えての感想



○博物館担当職員の感想

- ・ 見せることを前提とした展覧会などではなく、生の現場を見ることによって、博物館の役割の見えにくい部分を紹介する企画だったが、参加者がこちらの想像以上に興味を持って下さったので、実施してよかった。
- ・ 今後実施するとしたら、親子で参加できるような工夫をしてもよいと感じた。

○学生コーディネーターの感想

- ①子ども達に積極的に話すよう心がけることが出来た。見学中は、写真を撮る子、メモを書く子、あたりを見渡す子、10人それぞれ違う表情をしているのが面白かった。施設の裏側を見学し、何種類もの職種、工程があり、多くの人が携わっていることを学び、人は支え合って生きているということを自身も学ぶことが出来た。 振り返りの時間、周ったコースの復習で問題を出した時、多くの子どもが説明を覚えていた。見学中はあまり表情を変えていなかった子も、クイズで正解を言うとわかっていたと頷いていた。博物館や子どもについてたくさん学ばせていただき、良い経験となった。
- ②高校の時に小学校と関わるボランティアをいろいろやっていたため大丈夫だと思っていたが、歴史について興味のある子と興味のない子の差が激しかったため思っていたより大変だった。しかし、振り返り会では子供たちが積極的に発言しており、全員楽しかったと言っていたのでよかった。 博物館について自分自身も知らなかったことをたくさん学ぶことができ、勉強になった。自分は工学部の機械科に所属しているため個人的には24時間体制で温度と湿度を管理している機械室がとても興味深かった。

子ども薬剤師体験セミナー



◆ 団体名 : 横浜薬科大学

◆ プログラム実施の目的

小学4～6年生を対象に、本物の器具を使用した調剤体験及び模擬患者に対する服薬指導体験を通して薬剤師の仕事の一端を知ること、将来の職業選択の一助（候補）としてもらう。

◆ 実施日時 : 令和4年8月18日(木) 9:30～16:00

◆ 実施会場 : 横浜薬科大学内 薬剤学実習室・模擬薬局

◆ 参加児童数 / 保護者・未就学児など同伴者数 : 29名 / 42名

◆ プログラムの内容

① 「体の情報をもとに漢方茶を作る」

② 「処方箋を確認して水剤を作る」

③ 「錠剤の調剤と服薬指導体験」

◆ 当日の様子



◆ 錠剤の調剤と服薬指導体験

処方箋を確認して薬の一包化や薬を入れる薬袋作成体験のあと、模擬薬局で保護者の方々に対して薬剤師が行う服薬指導をしています。



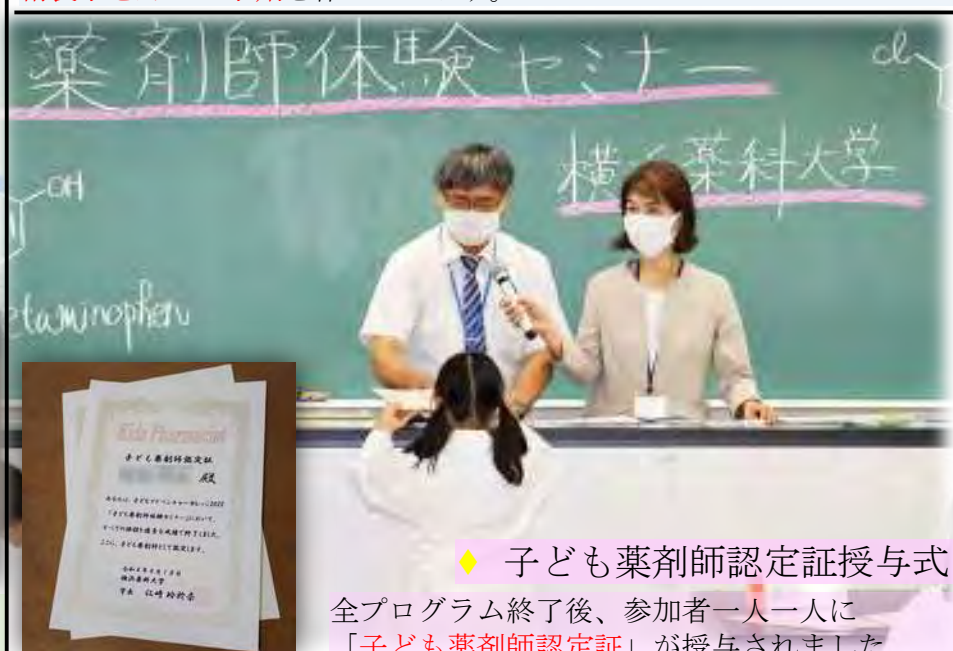
◆ 処方箋を確認して水剤を作る

メートグラスを使って計量したシロップを投薬瓶に入れたり、スパーテル(さじ)や電子天秤を使って量った散剤を投薬ビンに入れ、さらに精製水を加えて水剤を作っています。



◆ 体の情報をもとに漢方茶を作る

付添者(保護者)から体の情報を聴き取り、それを基に紫蘇、陳皮などの生薬を使用して体質に合った漢方茶(健康茶)を作っています。



◆ 子ども薬剤師認定証授与式

全プログラム終了後、参加者一人一人に「子ども薬剤師認定証」が授与されました。

◆ 振り返り会

※ 学生コーディネーターのインタビュー
参加児童アンケートからの抜粋

◆ おもしろかったところ、良かったところは、ありましたか？

✓ 大学生や先生が優しく、分かりやすく薬について教えてくれたので楽しかったです。今日の体験を通して『薬剤師になりたい！』と思いました。

✓ 作ったものをそのまま持って帰ることができることや、自分でお母さんにアンケートを取って漢方茶の材料を入れたりするところ。

✓ 錠剤を作る時に量を量るのは難しかったけど、自分の想像より上手に出来て良かった。もう一回、いや何百回もやりたい。

✓ 私の質問に1回1回、きちんと答えを返してくれたのでとても良かったです。

✓ メモリを見るときは目線の高さに合わせるといのが勉強になった。

✓ 処方箋に従って薬を作るのが楽しかった。

✓ 本物の薬剤師になった気分でした。

◆ 良くなかったところは、ありましたか？

✓ 待ち時間。

✓ 最後の賞状のところが恥ずかしかった。

✓ 全部が楽しすぎたのでないです。つまり、完ぺきな大学です。



◆ プログラムを終えての感想

◆ 学生コーディネーター（2名）の感想

事前打合せで横浜薬科大学の皆さんが当日の動きや各ブースでの活動内容を詳しく教えてくださり、参加者の誘導等配慮すべきところが理解できたので、安心して当日に臨めました。今回は私自身、子どもたちと関わり、取り組みの様子を知ることによってアプローチ方法を模索でき、今後教育に関わる勉強を続ける上で貴重な経験となりました。

一方で、大学側のアンケート用紙の存在を知らずに、私たちが紙を用意したり、主催側への報告書に学生コーディネーターの記載箇所がある旨を認識していなかった等、情報共有に不備がありました。今後は関係者間でしっかり情報の共有をしていただければと思います。

横浜薬科大学の学生さんの学ぶ姿勢や教職員の熱い思い、専門的知識など、こちら学ぶことが多く、また子どもたちが安心、集中して学ぶことが出来る場所や環境を用意する事の大切さを改めて学びました。学習機会を提供する側になっても、学ぶ姿勢を忘れないようにしたいです。

一方、せっかく振り返り会をしたので、そこで感じた事を紙に書かせ持ち帰らせる用意があれば良かったかもしれません。運営では、大学側が用意した参加児童アンケートの存在や修了証のQRコードの存在、企業・団体側が提出する報告書があることを私たちも事前に把握出来ていれば、さらに協力が出来たのではないかと感じました。



◆ 実施団体（横浜薬科大学）の感想

参加者の子供たちのアンケートより、特に漢方調剤が好評を得ました。これは本物の生薬（食品）を実際に触ったり香りを嗅いだりした体験が奏功したと思われます。今回のプログラムでは、漢方に関する体験は生薬で使われる同様の食品を用いる一方で、錠剤や水剤に関する体験は、普段から口にするお菓子などでの代用でした。このことから、今後も可能な限り実物やそれに近い材料を用いて、実態に即した、よりリアルな体験学習を企画したいと思います。

一方、大学側で用意していた参加者アンケートについては学生コーディネーターさんと情報の共有が出来ておらず、やや混乱を招いてしまいました。今後、同様の機会を得た際は、しっかりと認識の統一を図り、円滑でより実りの多いものにしていきたいと考えます。



大佛次郎記念館

「お話の中の猫を描こう！～感想画体験～」
作家の仕事に触れ、表現することを体験しよう

2022年8月17日（水）・18日（木）

10:30～12:00 / 14:00～15:30 ＊各日2回

参加児童数 31名 / 同伴者数 34名

大佛次郎作「白猫白吉」の感想画を制作

当日の様子



大佛次郎についての話を聞いて、館内を見学。
思い思いに「白猫白吉」の感想画を描きました。



振り返り会



沢山の本を見て、ワクワク
した

大佛さんが本が大好きだと
伝わりました

想像した絵が書けて良かっ
たです

大佛次郎の本がいっぱい
あって、読んでみたい

本を書くのが大変だと分
かった

絵を描くときに色々なペン
があって楽しかった

館内が見られてよかった

ねこの置物が沢山あるのが
わかってよかった

大佛さんがベッドの上でも
書いてすごいと思った

絵を描けて楽しかった



プログラムを終えての感想

【学生コーディネーターより】

案内する立場でしたが、自分も学びがありました。普段入れない場所の見学などは貴重な体験でした。進行役は気を遣うことが多く、学ぶことが多くありました。感染予防もあり、黙々と絵を描くことも多かったが、もう少しにぎやかな雰囲気を作ればよいと思いました。

【大佛次郎記念館より】

横浜生まれの作家・大佛次郎の人物と作品を身近に感じていただく貴重な機会となりました。これからも幅広い世代に文学館の魅力を発信していきたいと思います。参加者、保護者、コーディネーター、主催者をはじめ、皆様のご協力に感謝いたします。



【団体名】 横浜人形の家

【目的】 人形の保存方法を実体験していただき、カビの特性や文化財害虫の特性を学ぶことができます

【実施日】 2022年8月18日(木) ①10時～12時30分 ②14時～16時30分

【場所】 横浜人形の家 多目的室

【参加数】 参加児童数23名 / 保護者同伴者数21名

【プログラムの内容】

- ・ 人形の保存方法解説
- ・ 人形を薄紙で包む（体験）
- ・ 人形の素材を使う工作（体験）
- ・ 館内ギャラリーツアー
- ・ 当日の振り返り発表

学芸員のお仕事体験をしてみよう！

当日の様子



人形の説明



包む体験



工作ヘアピン作り



ギャラリーツアー

人形包みの感想発表

ほけふ・21世紀美術館プロジェクト
子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022

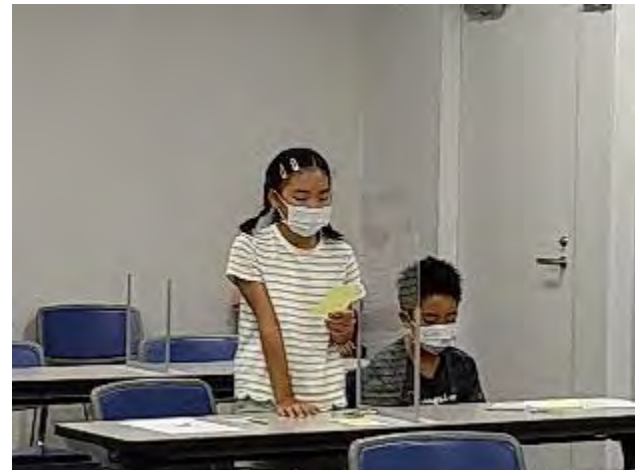


振り返り会



【参加児童の主な感想、意見】

- ・ 学芸員がいろいろ仕事をしていることが分かった。
- ・ 国によって人形の衣装がぜんぜん違うのがおもしろかった。
- ・ 人形を包む作業がとても難しかった。
- ・ 害虫の勉強はお家でも役に立つと思った。
- ・ ビスクドールの目の仕組みがわかるヘアピン作りが楽しかった。



プログラムを終えての感想

【団体等の感想】

- ・ 将来学芸員に成りたいと思う子どもが増えていただければ嬉しい。
- ・ 人形を大切に作る気持ちが伝わったのではないかな。
- ・ お子様の年齢も3年生～6年生と幅があったため、全員が飽きないように工作なども取り入れる工夫をした。
- ・ 学生コーディネーターの振り返りコーナーは子ども一人一人に声を掛けられよかった。

【学生コーディネーターの感想】

- ・ 子どもたちだけではなく私たちも貴重な経験ができた。
- ・ 子どもアドベンチャーを通して、子どもたちと多くのコミュニケーションが取れ、学びの多い1日だった。
- ・ 子どもたちにとって今回の経験を日常でも役立ててほしい。



「議事堂探検！議員を体験！」

(主催：横浜市議会局政策調査課)



《開催テーマ》 横浜市の会について理解を深めてもらうため

《開催日》 令和4年8月17・18日 ⇒ 各回90分で計6回実施

《会場》 横浜市の会議事堂

《参加者数》 (児童)145名/(同伴者)170名 ⇒ 計315名

《プログラム内容》 議員体験(ボタン採決など)、学習動画視聴

当日のようす



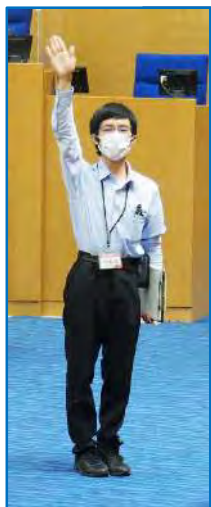
《ステップ1》
横浜市会について学習動画を
視聴！

《ステップ2》
議員さんが実際に座っている席
で議員体験！
普段入れない場所で記念撮影！



《ステップ3》
横浜市会についての質疑応答！
振り返り会で感想発表！

振り返り会(参加者コメント)



- ・ 議員さんと同じ体験ができて良かった
- ・ 自分の生活に関係する大事なことを決める場所だとわかった



- ・ 実際に議員さん達が話し合っているところを傍聴してみたいと思った
- ・ いつか議員になってみたい



プログラムを終えての感想

《所管課 職員》

「参加児童の中には将来は議員になりたいという発言もあり、若い世代の主権者教育の場として本イベントの開催は有意義なものだったと思う」

《学生①》

「人に対してわかりやすく興味関心を持ってもらう話し方について再考する良い機会になった」

《学生②》

「イベントを進行する力が伸びたと感じた」

「参加スタッフと協力し合いながら楽しくイベントを終えられて良かった」

子どもアドベンチャーカレッジ2022 クイズを解いて税金を知ろう！ ～税金謎解きゲーム～

問題5 なんて読む？



主催：横浜市租税教室推進協議会
【プログラム実施の目的】

税金の仕組みや大切さを学ぶ

8月17日・18日 10時・14時開始

会場：横浜市庁舎 アトリウム

参加児童数 40人/ 同伴者数44人

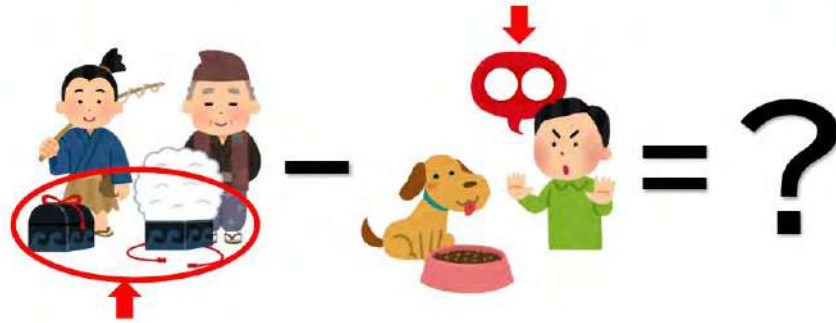
【プログラムの内容】

税金に関する謎解きクイズに挑戦

当日の様子

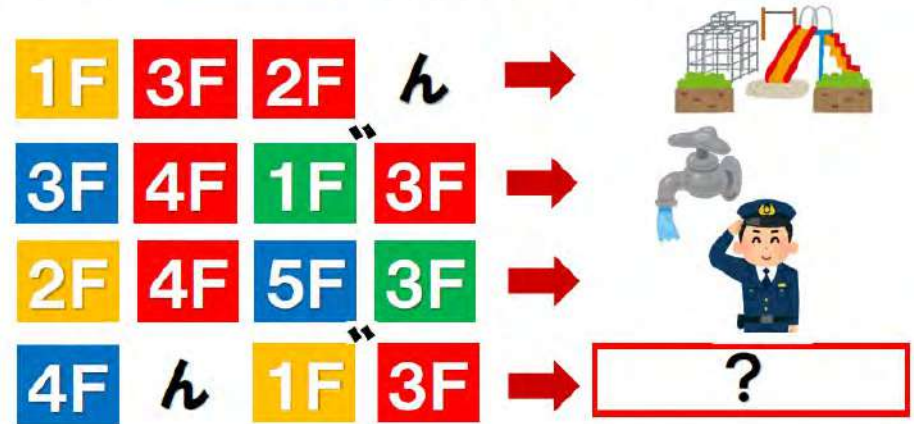
問題4 ?に入る言葉は？

子どもアドベンチャー・カレッジ2022
クイズを解いて税金を知ろう！
～税金理解ゲーム～



問題7 に入る言葉は？

子どもアドベンチャー・カレッジ2022
クイズを解いて税金を知ろう！
～税金理解ゲーム～



問題は10問。すべて解くと、特別な11問目に挑戦できます！



振り返り会

クイズの解き方を解説しながら、答えにまつわる税金の種類について、楽しく学びました。

<参加児童の主な感想、意見>

たばこや温泉に関する税金があるのを知りました。

みどり税という税金のことを知りました。

問7・問10が難しかったです。

全問正解できてうれしかったです。



プログラムを終えての感想

<団体の感想>

税金という一見難しいものに、少しでも興味を持つきっかけを提供できてよかったです。

<学生コーディネーターの感想>

・クイズのヒントを出す際には、子どもたちにわかりやすく伝えるためにどのようなアプローチをするかずっと考えていたので、いつもとは違う視点を体験できました。

・振り返り会で、子どもたち自身の口から感じたことや学んだことを深く引き出すことは難しかったけれど、少しでも仕事に興味を持つきっかけをつくることができたのではないかと感じました。

・学んだことを今後の活動につなげていきたいです。

建設工事ってどんなお仕事？ 建設のお仕事にチャレンジ？



- ・一般社団法人横浜建設業協会 / 横浜建設業青年会 共催
- ・建設業について学び将来の担い手になってほしいため。
- ・実施日時 8月18日 10時~16時
- ・実施会場 神奈川県建設会館A棟 5階「大会議室」
- ・参加児童数 14名 / 保護者 13名
- ・建設業のお仕事の話・家の図面を書いてみよう
- ・距離を測ってみよう・工具を体験してみよう

当日の様子



建設業の仕事について説明。



家庭にはない工具の体験。



家の間取り図面を作成する体験。



測量器で実際に距離を測ってみる。

振り返り会



<参加児童の感想・意見>

振り返り会の際に、小学生に1番楽しかったことはと質問したところ、「PCで家の図面を作る」が8票と最も多かったです。

また、「家具の配置を自分で考えるのがおもしろかった」、「将来は設計者になりたいという夢を見つけることができた」と話していた児童もいました。



そして次回体験したいことについては、

- ・ 建設車両に乗りたい
 - ・ 木を使って実際に小さな家を作ってみたい
 - ・ 紙で設計図を作りたい
- という意見がありました。

プログラムを終えての感想

<団体の感想・意見>

定員制や会場スペースなど、様々な制限がありましたが、少人数だからこそ、参加してくれた子供達に建設業の仕事の一端を伝えることができました。クイズや間違い探しを交えた説明に対して真剣に耳を傾けている姿勢や、各体験に夢中に取り組み楽しんでくれた子供達の姿が印象に残っています。

<学生コーディネーターの感想・意見>

プログラムに参加し、実際に現場で働いている人の話を聞いたり、道具などに触れ、貴重な体験ができました。建設業は昔に比べると人気が下がっている職種であると聞き驚きましたが、このような体験の機会をもっと増やしていけば将来の夢として建設業で働くことを目指す子供がもっと増えるのではないかと思います。また、小学生にはどのような言葉が伝わりやすいのかを考え、分かりやすく説明、進行ができました。このプログラムに参加したことに自信を持ち、この経験を活かしていきます。



- ・株式会社 神奈川銀行
- ・子どもアドベンチャーカレッジ2022 ～お金のおもさを感じよう！
主旨：キャリア教育の視点から子供の「働く」ことの体感や、
「お金」の大切さ・重さを知ってもらう機会を提供するため
- ・実施日時：8/17(水) ①10:00～12:00 ②13:00～15:30
- ・実施会場：神奈川銀行 本店
- ・参加児童数：児童数20名、保護者19名
- ・銀行探検、1億円に触れる、お小遣い帳の書き方等

当日の様子

【銀行の役割、お小遣い帳の書き方】

講義形式で、お金の「大切さ」という意味での「重さ」を学んでももらいました



【お金の重さ当てクイズ】

硬貨の入った袋を持ってもらい、お金の「物質量的」な意味での「重さ」を体感してもらいました



【銀行探検】 普段は見ることのできない、金庫の中やATMの裏側を見学しました



振り返り会

- お金の大切さがわかった
- これからは無駄な物を買わないようにする
- 銀行の役割がよく分かった
- お金が重かった（物質量的に）
- お札の数え方が面白かった
- お札を上手に数えられた、難しかった
- 銀行探検中に札束の作り方を知れて楽しかった
- 金庫の中が見れて楽しかった
- 硬貨が機械で仕分けされて面白かった 等

プログラムを終えての感想

- ・日本は欧州に比べ金融教育が乏しい。今回改めてそのことを実感した。
「貯蓄から投資へ」の流れを推進する上で、金融リテラシーの向上は必要不可欠であり、地域金融機関として今後も貢献していきたい。
- ・両学生とは事前に綿密な打ち合わせの上で臨んでもらったが、よく気が利く方で当日も、ワーク中など円滑に進行するよう自身で考え積極的に立ち回ってくれた。

ニュースパーク（日本新聞博物館）

「情報の森」冒険の心得を 取材し、新聞にしよう！



【目的】

子供たちに真偽ない交ぜのさまざまな情報があふれる現代社会に必要な「情報を見極めることの大切さ」「情報を正しく伝えることの大切さ」を学んでもらうとともに、取材・記事執筆・新聞製作体験を通して記者の仕事を知ってもらい、新聞に関心を持ってもらう。

【日時】 8月17日（水）、18日（木） ①午前10時、②午後2時 ※1回約2時間

【会場】 ニュースパーク（日本新聞博物館）

【参加者数】 47人（このほかに保護者・未就学児など60人）

【内容】

新聞製作マネジャー（元新聞記者）のレクチャー（取材の仕方、見出しのつけ方、記事の書き方など）を聞き、記者になってニュースパークを取材して記事にまとめ、オリジナル新聞を作成する。

当日の様子

夏休み・おはな体験プログラム
**子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022**



■新聞製作マネジャー（元新聞記者）
のレクチャー



■職員の説明を聞きながらニュース
パークを取材



■取材内容を基に新聞づくりに挑戦①



■取材内容を基に新聞づくりに挑戦②

振り返り会

夏休み・お休みのプログラム
子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022



【アンケートで寄せられた主な感想】

- ・先生と一緒に探検して大切なことを調べたのが楽しかった。
- ・新聞を作るのがとても難しかったけど、できたときの達成感がすごかった！
- ・新聞づくりができて、記者の気分を少し体験できた。
- ・これからたくさんの情報の中で生きていく上で、とても大切なことを学べ、自分の中でまとめるという経験ができた。

プログラムを終えての感想

【企業・団体等の感想など】

ニュースパークでは情報を見極めることの大切さと、そのために気を付けることを、取材・記事執筆・新聞製作体験を通して学んでいただいた。また記者の仕事を体験することで、新聞にもより関心を持ってもらえたのではないかな。

【学生コーディネーターの感想など】

振り返り会の司会をしながら、子どもたちが話しやすい雰囲気づくりや話題提供の難しさと感じた。イベントに携わって、子供たちの作業の進捗の度合いの違いや急な予定の変更など、ものごとに柔軟に対応していくことの大切さを学んだ。今後に生かしていきたい。

スポーツチームのお仕事を 体験してみよう！

- ・団体名 横浜市市民局スポーツ振興課
- ・プログラム実施の目的
チームの活躍を支えるスタッフの存在やどんな業務を行っているのかを知ってもらい、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことへの関心を高めてもらう。
- ・実施日時
8月17日 10-12時：横浜キヤノンイーグルス 13-15時：横浜エクセレンス
15-17時：横浜F・マリノス
8月18日 10-12時：横浜DeNAベイスターズ 13-15時：横浜ビー・コルセアーズ
15-17時：横浜FC
- ・実施会場 横浜市役所アトリウム
- ・参加児童数 64名 / 保護者・未就学児など同伴者数 93名
- ・プログラムの内容
チームのスタッフを講師に迎え、お仕事に関する講義やワークショップを実施

当日の様子



チームスタッフの皆さんが、どんなお仕事をされているかお話いただいたり、応援グッズやチームのファンを増やすアイデアをみんなで考えたりしました。

振り返り会



子どもたちからは、
「チームが地域の困りごとを解決するために、色々な活動をしていることを知って勉強になった」
「グッズを考えたり、チケットを売ったり、色々なお仕事があることを知ることができて楽しかった」
「みんなで一緒に考えたり、お話することができて良かった」
といった感想がでていました。

プログラムを終えての感想

・チーム及びスポーツ振興課の感想

ご協力いただいたチームスタッフの方からは、「子どもたちが真剣に取り組む様子や、楽しそうにしているところを見られて嬉しかった」「子どもたちの発想からアイデアをもらえた」といった感想をいただきました。

チームや選手のごことは知っていても、スタッフがチームを支えているということを知らない子どもたちが多いことを改めて認識しました。

今回のプログラムに参加したことで、子どもたちがチームのことをもっと好きになってもらったり、将来の選択肢として、スポーツに対し「する」「みる」ものだけでなく、「ささえる」関わり方も考えて貰えると期待しています。

・学生コーディネーターの感想

イベントを運営する経験がなかったので貴重な体験ができました。

振り返りでは、子どもたちが楽しめるように進行する必要がありました。が、探究心を引き出してあげるのが難しかったです。

スポーツチームの皆さんは、子どもたちの心を開くのが上手く、参考になる部分がありました。

No.25 体験！1日都市デザイナー

- 【 団体名 】 横浜市都市整備局都市デザイン室×景観調整課
- 【プログラム実施目的】 横浜の都市デザインや景観について
広く知ること、身近に感じてもらうため。
- 【 実施日時 】 8月17日（水）午前9時～正午
- 【 実施会場 】 馬車道駅～市役所18階会議室
- 【 参加児童数 】 10名
- 【保護者など同伴者数】 10名
- 【 プログラムの内容 】 （前半）北仲エリアのまちあるき（ガイド付き）
（後半）グループワーク

当日の様子

北仲エリアのまちあるき（ガイド付き）



みなとみらい線馬車道駅で集合し、駅のデザインや、横浜のまちづくりなどをご案内しました。

グループワーク@市庁舎



未来の横浜がどのようなまちになったらもっとワクワクするか3人1組で描いてもらいました。

振り返り会

富良野・市川研修プログラム
子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022



まちの工夫やものを自分で考えて描くことが
とても楽しかった！

みんなで意見を出し合って
横浜のまちを作ることができてとても楽しかった。
いつか本当に今日描いたまちが
実現したらいいなと思いました。



横浜はいろいろな工夫があって
すごいなと思った。勉強になった。



学生コーディネーターによる振り返り会の様子

プログラムを終えての感想

横浜市都市デザイン室・景観調整課

- ・ 子供はまちに何を求めるかを知ることができた。
- ・ 固定観念に捕らわれないアイデアでまちの未来を考えていきたい。

学生コーディネーター

- ・ イベント運営には色々な方が関わっているのだと知ることができた。
- ・ 景観や都市デザインに興味があったので、プロの方の説明を間近で聞くことができ、とても貴重な体験だった。
- ・ 学生の間でまちあるきを企画しようとしていたので参考にしたい。



1日都市デザイナーの
皆さんで集合写真★

「道志村と昭和村を体験だ！」

- 団体名：政策局 大都市制度推進本部室 広域行政課
- プログラム実施の目的：
様々な社会体験を通じた「人との交流」の場や、「友好交流」
について考える場を提供する
- 日時：2022年8月18日 10:30～12:00 / 13:30～15:00
- 会場：横浜市役所アトリウム
- 参加児童数：31人 / 保護者・未就学児など同伴者数：24人
- プログラムの内容：
＜昭和村＞リモート農業体験、
＜道志村＞水源涵養林実験、間伐材を使った工作

当日の様子

夏休み・お盆休み体験プログラム
子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022

<昭和村>
リモート農業体験



<道志村>
水源涵養林
の実験



<道志村>
間伐材を
使った工作



振り返り会



振り返り会



○参加児童の主な感想、意見

- 昭和村のとうもろこしの収穫を見れて楽しかった
- 道志村の工作が難しかったけど楽しかった
- 水源涵養林の実験を家でもやってみたい
- とうもろこしを食べるときに生産者さんが言っていたこと（下記）を思い出しながら食べようと思った
 - 皆さんが「おいしい」と言って食べてくれることが、やりがい
 - 大人になってお仕事を選ぶときに、「農家」をぜひ選択肢に入れてほしい
- 両村の名前の由来がわかった
- 両村に実際に行ってみたいと思った

プログラムを終えての感想



○団体の感想

- リモート農業体験は、初の試みであったが、引率の大人も含め多くの学び・気づきを提供することができたと感じている。将来性を感じる事業のため、今後も継続して実施していきたい。
- 実験及び工作は、涵養林の働きについて、楽しみながら学ぶことができたため、小学生の満足度が高いように感じた。
- 友好・交流自治体である道志村と昭和村を、知っていただくいい機会となった。これを機にぜひ両村へ足を運んでもらいたい。

○学生コーディネーターの感想など

- 昭和村、道志村の魅力が体験を通じて伝わったと感じた
- 振り返り会で、子供の素直な意見を聞くことができた
- 子どもたちが意見を言いやすい環境づくりが難しかった
- 子どもたちが楽しんでいたのが何よりもうれしかった



団体名 : 公益財団法人 横浜市スポーツ協会
プログラム名 : メイクスポーツ！スポーツを創るお仕事って何だろう
実施目的 : スポーツ弱者をなくす。
スポーツを通じて共生社会を学んでもらうため。
実施日時 : 令和4年8月17日、18日
場所 : ニッセイ横浜尾上町ビル地下会議室
参加者 : 両日とも7名（2日間同じ参加者）
付き添い : 17日5名・18日5名（途中入退場あり）



公益財団法人
横浜市スポーツ協会
YOKOHAMA SPORT ASSOCIATION

当日の様子

選手・市民参加プログラム
子ども
アドベンチャー
カレッジ
022



オリジナルスポーツを
創りました！



今話題のスポーツ
を体験

左上：トライトレイン体験
左下：モルック体験
右上：スポーツ創っている様子



公益財団法人
横浜市スポーツ協会
YOKOHAMA SPORT ASSOCIATION

振り返り会

子どもたちの声

- ・初めて出会った友達とスポーツ創りができて楽しかった
- ・運動が苦手な人でも、できるスポーツがあることを知った

保護者の声

- ・昆布が環境に良い事を初めて知って、勉強になった
- ・目が不自由な人が、どうやったらスポーツに取り組めるのか、子どもたちが考える時間になって貴重な経験になった



素敵な意見をたくさん
いただきました！



公益財団法人
横浜市スポーツ協会
YOKOHAMA SPORT ASSOCIATION

プログラムを終えての感想

担当者の所感

学校の授業とは違い、初めて会った子ども同士でもスポーツを通じて、あっという間に打ち解ける様子が印象的だった。

学生所感

- ・こどもたちのグループワークでは、意見が出ないかと思ったが、想像以上に活発なグループワークだった
- ・保護者がいることで、緊張もあるがしっかりと役割を果たすことができた。

子どもアドベンチャーカレッジ 2022

めざせ！まちの防災博士！



<開催概要>

【実施団体】 横浜市 防災まちづくり推進課

【実施目的】 まちの名前から、“そのまちがどういうまちなのか”を学び、まちの持つ“魅力”や“災害リスク”などを考え、“効果的な防災行動は何か”を学ぶきっかけをつくる

【実施日時】 8月17日(木) 9:00-12:00

【実施会場】 横浜市庁舎 17階会議室

【参加児童数／同伴者数】 9名／6名

【プログラム内容】 第1部(講義)

地名や航空写真、歴史地図等からまちを分析し、防災行動を学ぶ

第2部(ワークショップ)

災害発生時やキャンプにも使える防災テクニック「簡易ランタン」でアートに挑戦

当日の様子

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022



▲まちの名前から地形などまちを分析



▲プロジェクションマッピングで延焼被害のイメージを学ぶ



▲ライトとペットボトルでつくる簡易ランタンWS



▲絵や装飾することで楽しく防災テクニックを学ぶ

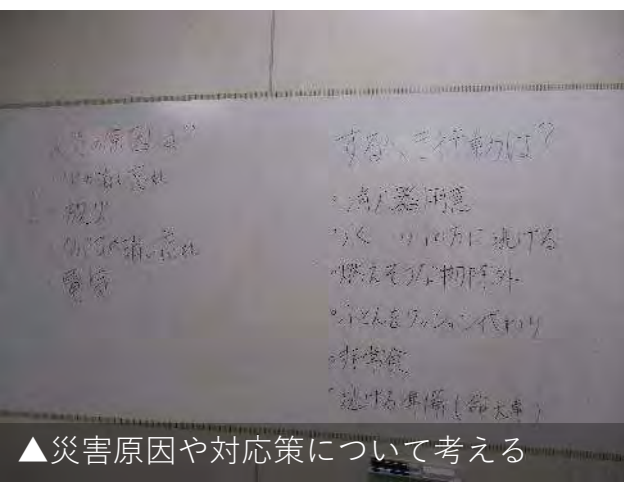
振り返り会



▲学生スタッフによる振り返り会の様子



▲ランタンアートの作例



▲災害原因や対応策について考える



▲好きな装飾を施したランタンアート



▲つくった作品をみんなの前でお披露目

プログラムの実施を通して

- “防災”という、少し難しいと思われる内容に興味を持ってもらうには、
「別視点でのアプローチ」が効果的
ex.) 災害から命を守る → 延焼被害をプロジェクトマッピングで見る
→ 敵から逃げるゲームの感覚で命を守る行動を学ぶ
- 相手に何かを伝えたいのであれば、**“双方向のやりとり”**が重要
→ 相手にも考えてもらい、意見を述べてもらうことで理解度が増す
- “子ども”同士の交流の場であり、普段関わらない人(行政)とも関われる。また、同じ志を持った人(学生)と関われる機会でもあった。
= **“地域”と“若者”をつなぐ場** となっている。
- 参加した児童だけでなく、付き添いの方々も一緒に楽しんでいた。
= 身近な存在の楽しむ姿を見ることで、**学びの意識を高められる。**
- いろんなタイプの人がいる中、“対応の柔軟性”や“話しやすい雰囲気づくり”が大事
→ それぞれの**個性を生かした場づくりを意識したい。**
全体を見て、参加者**みんなが楽しめるような場をつくりたい。**



公益財団法人 横浜市建築保全公社

1. プログラム実施の目的

- ① 設計の仕事体験を主体的な学びのきっかけとするため
- ② 建築に興味をもつ機会、「将来の担い手」となるきっかけ

2. 実施日時

8月17日(水)・8月18日(木)

①午前の回 9:00~12:00 ②午後の回 13:30~16:30

3. 実施会場

建築保全公社 会議室

KDX横浜関内ビル6階(中区相生町3-56-1)

4. 参加児童数

28名 (17日 14名 / 18日 14名)

保護者・未就学児など同伴者数

29名 (17日 14名 / 18日 15名)

5. プログラムの内容

模型をつかって、以下のことを体験しました。

- ① 「こども建築士」になって学校を設計
- ② 保全公社の3つの修繕工事
 - a. 外壁改修工事 b. サッシ改修工事 c. 体育館屋根改修工事

建築の仕事を知ろう



設計、建設、修繕の仕事についての説明



仕事のやりがいや面白さを職員へインタビュー



建築の仕事を模型づくりで体験



「こども建築士」になって学校を設計



保全公社の改修工事を模型づくりで体験



振り返り会

振り返り会の様子



イベントの感想や学校の設計で工夫したことを、みんなの前で発表

夏休み・お仕事体験プログラム
**子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022**



参加者の感想

学校の配置を決めるのは大変だったけど、とても楽しかったです。

改修工事の説明を聞いているだけでも大変さが伝わりました。
でも、そのおかげで学校が安全になっているんだと思いました。

楽しかった、色を塗ることも、
つくること、建物を配置すること
も全て楽しかったです。

ソーラパネルをたくさん配置して、
環境問題にたいしても考えました。

建物の配置を考えるのは難しかったけど、
学校できているのが楽しくて、
完成したときは嬉しかったです。



色々なきっかけや、やりがい
があって、どれもきちんとした理由
があって仕事を頑張っていることが
凄いいました。

学校の設計を考えるのが楽しかったです。

建築の人の仕事が分かりました。
自分も大人になったらやってみ
たいと思いました。

プログラムを終えての感想

企業・団体の感想

- ・参加者からは「**設計は難しいけど楽しい**」という声を多くいただきました。
子ども達は、保護者や公社職員とコミュニケーションをとりながら、自分で考えて”理想の学校”をつくり上げました。
 **主体的・対話的な学びのきっかけ**
- ・参加者の中には「**将来、建築の仕事をしてみたい**」という声もありました。
“建築の仕事”の紹介に、公社職員へのインタビューを取り入れたことで、よりイメージを深めてもらえたと思います。
「建築に興味をもったきっかけは？」「子どもの頃の学びや勉強で、いまの仕事に役立っていることは？」「建築の仕事のやりがいは？」など
 **将来の社会参加のきっかけ**
- ・建設業界は、”就業者の高齢化”や”担い手不足”の問題が深刻な状況です。
今回の経験を、業界の「**将来の担い手確保**」の取組に生かしたいと思います。



学生コーディネーターの感想

子どもたちが集中して一生懸命作業している姿を見てすごく刺激を受けました。
子ども達の作業している姿を見て、何事にも一生懸命取り組むことの大切さを改めて実感しました。

私も誰かに良い刺激を与える行動ができれば良いなと思いました。



今回のプログラムは、参加者にとって夏休みのよい学びの機会になったと思います。

自分の好きな学校にするだけでなく、日当たりや環境への配慮などを取り入れている子が多く、自身で色々と考えて模型を制作していたことが印象的でした。
振り返り会も一人ひとりがしっかり自分の意見を持っていて発表も上手くできていたので、実のあるものになったと思います。

公社の方の話から気づきを得たり独創的な模型を作る小学生たちの姿に、刺激をもらえました。





企業名/SMBC日興証券株式会社

目的/金融と経済について学ぶ

いろいろなお仕事について学ぶ

実施日時/8/17、8/18 13:00～15:30

会場/SMBC日興証券株式会社横浜支店

・参加児童数：16名 / 保護者・未就学児など同伴者数：16名

内容/金融経済教育、県内企業紹介

当日の様子



金融経済教育の様子



振り返りの会の様子



- <プログラム内容>
- ・経済と金融の話
 - ・県内の上場企業紹介
5社×2日間（計10社）

振り返り会

- ・参加児童の主な感想、意見
 - ✓ たくさんのお仕事を知れて嬉しかった
 - ✓ 今度利用したり、商品を買ってみようと思った
 - ✓ 今日聞いた会社のことを友達にも教えようと思った
 - ✓ 金融と経済の話は難しかった



プログラムを終えての感想

・企業・団体等の感想など

- ✓金融経済教育は低学年には難易度が高かったようで、内容について改善が必要だと感じた
- ✓県内企業の紹介は子供たち、企業側双方に好評だった

・学生コーディネーターの感想など

神奈川大学 Uさん

- ✓さまざまな企業の発表を通して子どもたちが楽しく、面白く、たくさんの学びを得られていてよかったと感じた
- ✓金融や証券など難しい内容を小学生のうちから分かりやすく楽しく学ぶことができているよかったと思う

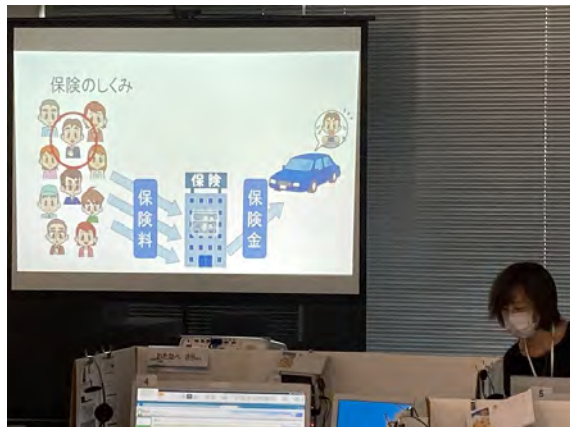
神奈川大学 Yさん

- ✓小学生の時点ではあまり意識することがない「証券会社」の仕事について子どもたちも楽しく学習することが出来ていたので良かった。個人としては、1日目の反省点を2日目で少し改善できたが、子どもの目線になって考えられていない点があったりしたのでまだ改善の余地はあったと感じた。



- ・コールセンターお仕事体験
 - ＜目的＞ 保険のしくみ・コールセンターの業務について理解する
交通ルールを守ることの大切さについて学ぶ
- ・2022年8月17日・18日
- ・MMパークビル4階
- ・参加児童数 41名 / 保護者・未就学児など同伴者数 42名
- ・保険のしくみの概要説明、端末を使った受信体験、修了証授与

当日の様子



保険のしくみをスライドで説明



端末を操作しながらお客さま役と会話する子



真剣な表情でお客さま役からの電話を待ちます



所長から参加者へ修了証を授与

振り返り会

フェリス女学院大学 Yさん
神奈川大学 Mさん



大学生が子どもたちへ「今日の印象を付せんに書きましょう」と説明



各自、模造紙へ感想を貼付



一人ずつ前へ出て
自分の書いたものを発表



【子どもたちの感想（一部）】

- ・最初は緊張したけど、やってみたら楽しかった。
- ・お客さまの気持ちに寄り添い、優しく接したいです。
- ・将来、この会社に入ってもいいかな、と思いました。
- ・保険のことがよく分かりました。
- ・たくさん電話がかかってきて、仕事は大変だな、と思いました。

プログラムを終えての感想



■ 企業側の感想 ■

地域創成活動として2年ぶりに参加。活気のある2日間を過ごしました。
近年、ドラレコの事故受付等、最先端の技術を活用した取り組みが目立ちますが、受付時には「お怪我はありませんか」と声をかけることから始まると説明しました。
小学生に解説することで改めて、相手を気遣う気持ちが大切だということを認識しました。
また、大学生とコラボし、振り返り会をすることで、直接、子どもたちの感想を聞いたり反応を見られたことは大きな収穫でした。
この活動を担当役員にも披露し、社内報でも大きく取り上げられ、成果が得られました。
地域の皆さまに、保険会社の存在意義を知っていただくとても良い機会となりました。

■ 大学生の感想 ■

Yさん：①相手の立場に立つこと②主体的に考えて動くこと③コミュニケーションをとることの大切さに気付き、学びました。

例えば、小学生にどうやったらこの振り返り会が分かりやすくなるのか、小学生側の気持ちで考えて取り組みました。これらは、今後の就活でも役立ちそうです。

Mさん：小学生と企業の間には大学生が入ることが必要な理由を考えながら参加しました。普段の講義で得た知識や、ゼミでの活動から振り返り会を企画し、成功しました。
世代間交流を上手く行うコツをつかんだ気がします。
とても良い経験をさせてもらった2日間でした。



横浜市国際局国際協力課

「食べる」から世界を考えよう！



目的：世界の10人に1人が飢餓状態にあることを知り、世界の栄養状況の改善のために活動する国際機関の役割について学ぶ。一方で先進国の食品ロスの現状について知ってもらい、今日から自分たちにできることについて考えてもらう。

実施日時：8月17日（水）

実施会場：横浜国際協力センター 6 階

Y-PORTセンター公民連携オフィス「GALERIO（ガレリオ）」

参加児童数：31人（午前回、午後回合計）

プログラム内容：

◆食料関連国際機関代表挨拶（FAO駐日連絡事務所長 日比絵里子）

◆アイスブレイク（食に関するクイズ）

◆「栄養から考える飢餓」（国連WFP協会）

世界の栄養状況と、世界の人々が十分な栄養が取れるように取り組むWFPの活動について学ぶ

◆「食品ロス削減の取組」（横浜市資源循環局）

日本と世界の「食品ロス」の事情について知り、今日からできることについて学ぶ

◆振り返り会

学んだ内容を受け、グループワークをし、発表

当日の様子

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022



FAO日比所長による、「食べることは世界と切り離せない」という講話が印象的でした



世界の飢餓状況と国際機関の仕事についてWFPの例から学んでいます



日本・横浜市の食品ロスの現状を知り、食材救出ゲームで食材を捨てない方法を考えました



休憩時間には市内・横浜国際協力センター入居の国際機関の資料コーナーも人気でした

振り返り会



以下の2つのテーマについて話し合い、たくさんの意見が出ました！

◆ 栄養が足りていない人に栄養がある食事を提供するためにできることは何だろう？

- ・募金やチャリティーイベントに参加する
- ・収益の一部が支援に充てられる商品を選ぶ
- ・食料の提供だけではなく、農業を教える（生産の向上）

◆ 食品ロスを減らすために、今日からできることは何だろう？

- ・好き嫌いをせずに残さず食べる（食べきれる量を買う、頼む、作る）
- ・フードドライブ、ローリングストックを活用
- ・調理の際に廃棄部分を最小にする
- ・冷蔵庫の中身を整理する

振り返り会ではグループごとに自分たちにできることを話し合って発表しました！



プログラムを終えての感想

主催者

近年SDGsについては小学校の授業で扱われていることから、子どもたちにとっても関心のある分野であると参加者の様子、感想から感じた。各自自分なりの意見を持っており、グループワークは多様な意見を知る良い機会になると思った。

今後も横浜国際協力センター入居の国際機関と連携して、子どもたちに興味をもってもらえる企画を作りたい。

学生コーディネーター

◆子どもたちのイベントへの積極性や前向きな思考にとっても驚いた。話を前向きに聞く姿勢や問いに対しての積極的な発言は印象に残ったとともに、自分自身も素直に見習うべき点であると感じさせられた。子どもたちと同じような視点や温度感で話すことが大切だという国際機関の方のアドバイスがとても勉強になった。たくさんの人の前で話す難しさや子どもたちから得た刺激を今後の学生生活に生かしたい。

◆小学生に伝わりやすいように行うプレゼンテーションの難しさを学んだ。イベントの内容自体からも吸収できることは多く、改めて考えさせることばかりだった。今後、イベント企画をしたり、大人から幼い子どもまで幅広い層を対象にしたりする中で、今回の企画から得たことを糧に頑張っていきたいと思う。

プログラミングの基礎を実体験してみよう！



株式会社ICON

【プログラム実施の目的】

コンピュータロボットKUMIITAとコマンドパネルを使い、プログラミングの基礎と設計からデバッグ作業までを実体験してもらうことで、論理的思考力とプログラミングについて学んでもらう。

【実施日時】2022年 8月17日（水） & 18日（木）

【実施会場】横浜ランドマークタワー7階 横浜市大サテライトキャンパス

【参加児童数】62名 / 【保護者・未就学児など同伴者数】71名

【プログラムの内容】動画教材を使い、KUMIITAのルールやプログラミングの基礎である順次実行、条件分岐、繰り返しを体感できる問題を次々のプロジェクターに映し出し、それに沿って、子どもたちが考えて自分たちで解決していく内容。

当日の様子



始まりです！
最初はクミータについて
グラフィック動画で学びます。



動画で出された問題を、
子どもたちだけで協力しあい、
話しながら解いていきます。
学生コーディネーターは、
子どもに答えを教えないようにヒントだけ！



答えは一つではありません！
カラー分岐のパネルを使って、
条件分岐で繰り返しのコースを次々に作ります。
皆で協力して、音符のパネルでメロディーを
ワンフレーズ作りました。

振り返り会

最後は、学生コーディネーターの進行で、振り返り会が実施されました。



学生コーディネーターが、子供たちひとりひとりに、本日の感想を聞いて回りました。

みんなで協力して、解いていくのが楽しかったという意見が多かったです。また、最後の難しい問題が一番面白かったと、みんな口をそろえて言っていました。最後に、学生コーディネーターから修了書が配られました。



プログラムを終えての感想



【参加企業として】

当初想定していた以上に、子供たちの考える力、理解する力が大きいことに、改めて気づくとともに未来への期待が膨らみうれしく思いました。予備で用意した問題も含めて、すべて使うほど、皆の理解度は高かったことに感心しました。

言語を使って、一人でPCに向かうのではなく、今日、初めて会った子どもたちが協力して、自分たちの力で、パネルを組み合わせプログラミングを組み立てていきました。そして、全員に楽しかったと言ってもらえ、このプログラムを実施し、良かったと思います。

【学生コーディネーター】

Aさん プログラミングは小学生や幼少期からでも学ぶことができ、論理的思考が働くことを、子どもたちと協力して行っている時に感じました。

子どもたちも自分たちで考え、グループ全員で考え、プログラミングを体験していました。今後、プログラミングの魅力がより多くの、幅広い世代に拡散できることに期待したいです。

Bさん 最初、仲良くなかったグループの子供たちも、協力して問題を解いていくうちに、仲良くなり、最終的には、みんな笑顔でパネルを動かしていたのが印象的でした。しかし、中にはカラー分岐の辺りから理解が追いついていないのに問題が進んでしまったり、性格上、クミータの動くスピードを待てずに飽きてしまったりする所が見当たりました。グループ分けの仕方や、飽きさせない方法が今後の課題だと感じました。

Cさん 他の学びにも言えることですが、楽しみながら学ぶということは学び続けることや、学びに対してのハードルを下げる要因として重要だと思っています。そのため、アドベンチャーカレッジで使用したKUMIITAのような、遊びながらプログラミングについて学ぶことのできる製品が増えればいいなと思いました。

Dさん 子ども達にとって初対面の人が多く、始めは少し緊張している様子でしたが、共通の分野に興味を持ち、共通の課題に向かうことで最後には子ども達同士の壁がなくなっており、楽しそうに活動していました。このような変化を見れたことがとても興味深かったです。

Eさん 低学年の子どもとの接し方、意見を引き出す力を学ぶことができました。例えば、ものを独り占めしてしまう子には、単純に「だめ」というよりも「協力してやってみよう」という声掛けのほうが効果的でした。また、子どもへのインタビューの際、はじめは「楽しかった」「難しかった」などの単調な意見しか聞き出せず戸惑ってしまいましたが、「どんなことが楽しい、難しかったか」という「はい、いいえ」では答えられない質問を挟むことによって子どもたちがどのようなことを考えているのかを知ることができました。



横浜のみどりを守る！生きもののレンジャーになろう（横浜市環境活動支援センター）

- ・プログラム実施の目的
生きものを調査をしたり、すみかを作ったり、生き物の大切さを伝える
「生きものを守るお仕事」を体験して、横浜のみどりをもっと豊かに
する方法について考えるきっかけをつくるため。
- ・実施日時 8月17日(水) 14時～16時30分
- ・実施会場 横浜市児童遊園地
- ・参加児童数 9名 / 保護者・未就学児など同伴者数 9名
- ・プログラム内容 生きものを守るお仕事の紹介。生きもののさがし。
そだ柵づくり。

当日の様子



アイスブレイク

葉のにおいが同じ人を探す
「アリの力を感じよう」



生きものさがし

プラスチックカップを持って、生きものさがし。草を食べるバッタが多いことがわかりました。



同じ葉っぱだね



完成した
そだ柵



そだ柵づくり

バッタ以外の生きものを呼び込むためにその生きもののすみかとなるそだ柵づくり。慣れない手つきでノコギリ作業。

振り返り会



参加児童の主な感想、意見

（今日楽しかったこと。これからの実践の仕方）

- ・虫を捕まえたり、木を切ったり、すみかを作ったりする体験が楽しかった。
- ・みどりを増やすための取組（お花を植えたい。こういうイベントにもっと参加したい。身の回りで生きもののすみかを作りたい）を行いたい。

プログラムを終えての感想

◆企業・団体等の感想など

- 今までの親子単位のイベントと違い、子どものみのイベントでは、大人に子どもたちが積極的に関わり、ふと心の距離が近づく瞬間があったのが、印象的だった。
- 小学生に年の近い大学生が参加することの良さが小学生への声掛け等のフォローする中で発揮されていた。






◆学生コーディネーターの感想など

- 子どもたちが自然や生き物という好きなものに対して熱中している姿、楽しんでいる姿であったり、初めてのものを見た時の表情や初体験をした時のわくわく感が見られたりしたことが印象に残った。
- 子どもたちが生き生きとイベントに参加していることが凄く印象的だった。子ども、大学生、社会人などが一緒になって活動することはなかなか無い機会なので、すごく貴重な機会にもなったと思う。

子どもアドベンチャー カレッジ2022 報告



看護とリハビリのお仕事を体験してみよう

-  企業・団体名 昭和大学保健医療学部
-  プログラムの目的
看護師や理学療法士、作業療法士の仕事内容や実際に行っている業務を体験し、医療系の職業について興味や関心を持ってもらう事
-  実施日時 2022年8月17日 13時～17時
-  実施会場 **昭和大学保健医療学部 横浜キャンパス**
-  参加児童数 児童 **29名**、保護者 **29名** 合計 **58名**
(申込者数 398名)

体験の様子

看護師







理学療法士





作業療法士




-  点滴の調節と心音聴取
-  消毒と包帯

-  物理療法
-  運動療法

-  補助具の使用
-  装具の作製



 各ブースを順番にまわり、保護者の方が患者になったり、子供たちが患者体験をすることで仕事の内容に触れるようにした。

振り返り会&アンケート

学生コーディネータ2名が司会進行、参加児童1人1人に感想を言ってもらった。

- ・ 普段できないような体験ができて**楽しかった**です。**貴重な経験**になりました。
- ・ 前からなりたかった夢が看護師だったのですが、今月の体験をしてより**夢が広がった**と思います。
- ・ 私は元々助産師になりたいという夢があります。その上で今回子どもアドベンチャーに参加し、作業療法士という知らなかった仕事もやってみて**こんな仕事もあるんだ！と初めて知りました**。**初体験**ばかりとても**楽しかった**です。
- ・ 色々なことが半日で体験出来て**楽しかった**し、特別な普段できないようなことがあって、企画してくれてとても**嬉しかった**です。**看護師になりたい**と思いました。また行きたいです。
- ・ あまり知らなかったけれど、**理学療法士や作業療法士は人の役に立つこと、不自由な人を助けてあげるということ**を初めて知り、**なりたいな**と思いました。またここで体験して、**いろんな仕事に触れあってみたい**です。今回は本当にありがとうございました。



楽しさ

興味・関心

仕事を知る

働くことの
意味


プログラムを終えての感想

実施してみての感想

3分野の職業の説明や職業内容を体験していただき、**子供たちの楽しそうな笑顔と熱心に取り組む様子を見て、大変嬉しくなりました。**振り返りの感想でも「**楽しかった**」「**初めて知った**」などの声が聞かれて、参加した本学の教員や学生にとっても有意義な体験となりました。


学生コーディネーターの感想

貴学の学生の方と短い時間ではありましたが、コミュニケーションを取ることが出来て、普段の活動などのお話を伺える楽しく**貴重な機会**となりました。

振り返り会の進行では緊張して上手く司会を行えるか不安でありましたが、保護者の方や子供たちの感想も聞くことが出来てとても**充実した時間となりました。**他校の大学生、先生方といった様々な世代の方との交流により学んだことを生かして、今後の勉強に精進して行きたいと思います。 **学生コーディネーター**  **神奈川大学 Hさん**



子どもアドベンチャーカレッジは私にとって**学びを感じた1日**でした。

看護やリハビリは日常では滅多に体験できないことでもあったので、私も初めて知ることが多くあり、**小学生と同じく学ぶ立場として聞き、体験することができました。**振り返り会で子どもたちの感想を聞いて、嬉しく思いました。誘導や振り返り会は昭和大学の学生や先生方のご支援のおかげでトラブルが起こることも無く、完遂することができました。本当にありがとうございました。 **学生コーディネーター**  **神奈川大学 Kさん**

No.38 水道管を 修理してみよう!!



横浜市水道局人材開発課

目的：水道の維持管理技術を体験してもらい、水道事業を身近に感じてもらうため

日時：8月17日（水）10時～12時

会場：横浜市水道局中村ウォータープラザ（南区中村町4-305）

参加児童数：14名 / 保護者・未就学児など同伴者数：14名

プログラム：給水管修繕・水撃圧・漏水調査・配管模型操作・管栓拔出

当日の様子

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022



水漏れを直したよ！



どのバルブを動かしたら
水漏れが止まるかな？



水の力に負けるな！



どこで水が漏れている？

振り返り会

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022

水道局の
仕事が
わかった！

水道管を
直せて
うれしかった！

水の勢いが
すごかった！

どれも
楽しかった！



プログラムを終えての感想



・水道局の感想など



子どもたちが楽しむには、大人が楽しそうにすることが大事だとあらためて感じました。イベントに限らず、相手のニーズを汲みとることを普段の仕事にも生かしたいです。

・学生コーディネーターの感想など

振り返り会の進行を担当してみて、人から感想や意見を引き出す難しさを実感しました。意見を言いやすい雰囲気作りや声かけの方法など、もっとスキルを磨いていきたいと思います。



子供達が体験している姿を見て、とても有意義な時間となりました。普段、社会との関わりが希薄のため、御社の方々と接したことで、自分が将来どのように社会に貢献していくか考えるきっかけにもなりました。

★スーパーでレジや販売員体験をしよう★



- ・イトーヨーカ堂 横浜別所店
- ・プログラム実施の目的
普段お家で食べている、スーパーで買った商品が、どういう
思いで作り・並べ・管理されているかを知って頂きたい。
- ・イトーヨーカ堂横浜別所店内
食品バックルーム・食品レジ・お客様入口
- ・参加児童数 10名 / 保護者 9名
- ・プログラムの内容（開店挨拶・BR探検・製造見学・レジ打ち）

当日の様子

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2022



みんなで開店挨拶練習



江戸前寿司ができるまで



フルーツカットの見学



レジ体験

振り返り会



- ・参加児童の主な感想、意見
レジ体験が楽しかった。
どう思うかで商品が並んでいるのか学べた。



プログラムを終えての感想

- ・企業・団体等の感想など
コロナ感染拡大防止のため、**10名**いっぺんに
体験や見学が難しい場面があり待たせて
しまう事があったのでチームを分けて実施
するなどの工夫が必要だった。子ども達の笑顔が
従業員のエンゲージメント向上にも担っていた。
- ・学生コーディネーターの感想など
貴重な体験ができた。
スーパーの裏側を見る事ができた。